

令和2年度 第4回 千葉県認知症対策推進協議会及び作業部会 議事概要

【開催日時】 令和3年3月19日（金） 午後2時30分から午後4時まで

【会 場】 プラザ菜の花 3階 菜の花1～4

【出席者】 協議会・作業部会委員20名、関係課・事務局職員等9名

計29名（欠席委員10名）

【あいさつ】 渡辺 健康福祉部保健医療担当部長

【議 題】

- （1）千葉県高齢者保健福祉計画（令和3年度～5年度）について
- （2）令和3年度認知症支援事業について
- （3）その他

【配布資料】

- ・ 次第
- ・ 出席者名簿
- ・ 資料1 千葉県高齢者保健福祉計画（認知症部分）
- ・ 参考 第3回協議会及び作業部会に対する御意見
- ・ 資料2 令和3年度認知症支援事業について
- ・ 参考資料 コロナ禍における認知症カフェの運営状況等について

「議題1（千葉県高齢者保健福祉計画（令和3年度～5年度）について）」

事務局から説明」

【委員】

3年間の経過期間を設けた中で、全ての介護事業の実践者に認知症介護基礎研修を義務付けることが決まっているが、県の方で認知症介護基礎研修をもう少し充実してもらった方が現場はやりやすいなというのと、加算要件の中に、認知症介護実践リーダー研修を修めていることが加算要件にこの4月から決まっているので、もう計画には入れられないと思うが、今後の方向性として、認知症介護基礎研修の受講者をきちんと受け入れる体制を作っていただきたいのと、認知症介護実践リーダー研修の場を設けていただきたいと思う。

【事務局】

認知症介護実践者研修のところか？

【委員】

実践リーダー研修と介護基礎研修は、県の計画には入っていないが、介護基礎研修を受けないと、この3年間の間に現場でもう働けなくなる。初任者研修は大変であるが、介護基礎研修は6時間で終わるので、たぶん募集をかければ、みんなが受講すると思う。今、基礎研修をやっている事業者が県しかなかく、指導者になるためには、また認知症指導者研修を受けなければならないので、来年度以降もし検討いただけるのであれば、現場のために認知症介護基礎研修を始めていただきたいというのが1つ目の話で、2つ目の話は、4月以降の法改正でいろいろ加算が付くようになるが、加算の要件に認知症介護実践リーダー研修を受けていることというのが要件にあり、これもなかなか受けられないため、この2つの研修を県主催で定期的に行っていただくとありがたい。

【会長】

そのへんは、加算に関連しますので、検討していただいた方がよいかと思う。

【委員】

ほぼこれで完成というところで、要望としてお話をさせていただきたいが、若年性認知症対策のところ、資料1の108ページを見ると、若年性認知症を発生して仕事の状況について、退職したが73.7%、解雇されたが8.4%、配置転換は0%となっている。こうなってくると、今後大事になってくるのは、おそらく産業医とか産保センターとの連携が必要になってくるのではないかと思う。現状では、専門職の対応力研修会は医療関係というより、地域の人たちが中心になってきている。産業関係の企業の産業医とかは対象外となっていると思うが、そういったところへの連携も今後大事になっていくのではないかと思うので、今後、そういうところも考えていただけたらと考えている。

【事務局】

県の方で産業医に対しての研修は今までやっており、今年度については、その産業医にプラスして、会社の労働関係や人事、関係している担当事務など、範囲を広げて産保センターと共催で研修を開催した。来年度についてもこういった形で研修する予定になっている。

若年性の認知症の推進の123ページ、若年性認知症対策の総合的な推進のところ、自立支援のためのネットワーク会議や関係者の研修会というのがあるが、これらの研修はこの中に入っているのだが、今おっしゃっていただいたことが全然見えてこないなので、もう少し丁寧に書いた方がいいと思うので検討させてください。

【委員】

千葉県医師会の産業医講習会の中で、若年性認知症の研修会というのをやらせていただいている。今年度も私の方で研修の中でお話をさせていただいているので、よろしく願いいたします。

【委員】

今、認知症の方を取り巻く現状として、コロナの事は本当に外せない問題であるなど思っている。今、千葉県でもまだまだ多い状況で何が問題かという、認知症の人がマスクをするのをすごく嫌がってしまったりとか、やはりコロナに対するリスクを自分で防ぐこ

とがなかなかできない状況にあり、なおかつ、通いの場がいろいろなことですごく閉ざされてしまっている。

例えば、後で報告がある認知症カフェが中止状態になっていたりとか、そうすると認知症の人御本人の今の身体機能や精神機能をそのまま維持するのがすごく難しい状況になっていて、ちょっと熱が出てどうしようかという時に病院がなかなか受けてくれないとか、逆に何ももう話さない意欲低下みたいな状態になってしまったりとか、そういうことが実際に現場では起きている。

これに関して、認知症に関連するサービスの方々は非常によくわかっているが、一般の県民の方々はなかなかその状況がわからない。元気な御家族もわからない。元気な御家族がもらって、家庭内感染で認知症の高齢者に移ってしまったりとかしている。

わたしたちはこの認知症の会議の中で考えなければいけないのは、正しい知識をしっかりと身に付けていただくことと、わたしたちが媒介に絶対ならないということ。介護者が突然感染者になったり、濃厚接触者になって何もできなくなったら、認知症の人の生活を支えられないという現状がすぐに発生する。介護者の問題をしっかりと取り上げていただいて、認知症の人を支える家族の問題というような取り上げ方も必要かなと思っている。

介護サービスがストップしてしまうという現状が、やはりまだまだみられており、そのためにほかのもので代替しようと思っても、例えば、デイサービスに行けなくなってしまった時にヘルパーさんで代替しようと思っても、ヘルパーさんがそれだけいっぺんに入らないとか、介護サービスの問題も出てきますので、そこもやはりきちっと教育の部分と代替の部分も考えていただければと思います。

やはりコロナという言葉だけで非常にレッテルを貼られてしまう。これも正しい知識というのは何を意味しているのかというと、病気の知識だけでなく、偏見や誹謗中傷を起こさないよう、みんなで住みやすい千葉にしないといけないと思っているので、そこも考えていただけたらありがたいなと思う。

入院して退院してくるときも陰性でなくてはならないかというようなことをすごく言われるが、今は、厚労省の方から出ているのは、陰性でなくては退院させないという事ではないので、そういう正しい情報も流していく必要があると思う。認知症の方が入院すると、2パターンに分かれるようで、ひとつはすごく行動が激しくなり、「こんなところいられない。帰る。帰る。」と言って、点滴を外したりして、激しい行動になる場合と、今回、

経験したのは、非常に意欲低下を起こしてしまって、身体機能がぐっと低下し、それまで3階のマンションまで歩いていた方が退院時は歩いて行けなくなってしまい、どうやって家まで帰すかと。逆に意欲低下で身体機能が低下することもあるので、これからのそういう方たちを支えていくのは単にコロナを治してだけでなく、生活全体をリハビリしていくという考え方がすごく大事なんじゃないかと思う。自分たちが大丈夫だったら大丈夫なのではなく、周りに関しての新しい情報提供までを含め、できたらコロナに関しての認知症の対策等を1ページ特集のように書いていただければ、また、そこだけ別出しして皆さんと共有できると思うので、そういうパンフレットなどを考えていただければありがたいなと思う。

現状でいろいろ起きているが、千葉県でどういうことが起きているかを調査して、データにして出していただければありがたいなと思う。

【会長】

本当にコロナで認知症の方々は、自覚がなかなかできないので、周りの方々も含めて大変だと思う。介護者の方や家族から感染する問題もあり、啓発も含めてどうかというのはあるかと思うが、去年、千葉大学病院で患者さんと付き添いで来られる方のストレス調査をしたが、やはり高齢の患者さんだけでなく、身体的に問題を抱えている御家族のストレスはかなり大きくなっている。認知症の方の問題、介護者の方、家族、身近にいる方のストレスは大きいのかなと思う。

介護の方々のワクチン接種が行われるかと思うが、県の方で何か情報はあるか？まだ、難しいですかね。

あと、パンフレットとか啓発ものも必要だろうという事で、検討を進めていただければと思う。我々の調査だと、若者がすごく注目されているが、全年代にわたって1割くらいの方があまりコロナに関係なく生活している。御高齢の方がカラオケで最近でもクラスタ一作っていることもあり、若者だけでなく、全年齢がリスクを抱えているという自覚を必要があると思う。

事務局も大変かと思うが、啓発のパンフレットのようなものを少し検討していただけたらと思う。

「議題2（令和3年度認知症支援事業について）事務局から説明」

【会長】

こういった研修等は、このコロナ禍であるのでオンラインというのものもあるのか。それとも従来通りのものか？想定されているか。

【事務局】

今年度もそうであるが、状況によってはオンラインで実施している。人数を想定よりも減らして、広い会場で実施しているものもあり、半々くらいだと思う。

【会長】

そうすると従来より予算効率としては悪くなってしまうか。

【事務局】

おっしゃるとおり。ただ、どうしても対面でやった方がいい場合については、感染症への対応に気をつけながら対面でも実施する。来年度もその形で考えたいと思う。

【委員】

（2）認知症普及啓発事業について、今年度、メモリーウォーク千葉でやった分は中止をしたが、来年度について何かもう手が挙がっているとかそういう情報はあるか。

【事務局】

まだ決定ではないが、2市やる予定で、富津市と木更津市が挙がっている。

【委員】

（2）認知症普及啓発事業について、今年度予算が172万ついていて、来年度は75万と40%近くまで減っているが、こういった理由があるのか。

【事務局】

今年度については企業向けのリーフレットを作成するために金額が今年度増えており、来年度はそのリーフレット分がなくなった。

【委員】

今しがた御説明いただいた認知症支援事業と計画の方で掲載をいただいている資料1の116ページ以降の各取組とは、どのような整理をすればよいのか。

具体的に言うと、資料2で掲載をされていない、例えば高齢協で受託している認知症介護実践研修であるとか身体拘束廃止の研修であるだとかは、資料2とは別に従来通り計画しているという理解でよいのか。

【事務局】

ここに掲載しているのは、当課の認知症対策推進班が持っている予算であり、虐待の部分については、別の班の方で、他課の分はそれぞれの課で計上している。

【会長】

問題なく遂行できるということで問題ないということでよいか。

【委員】

(13) ちば認知症子どもサポーター事業についてですが、船橋市は、小学校全校にキッズサポーターの養成をやっておりまして、その中で船橋の認知症対策推進会議で出てきたのは、小学生にはもう来年度からはiPadかなにかを全部普及して、密にならないような状態で研修が出来るという話が入っている。今年、小学校向けの認知症サポーターが今までどおりビデオを見てグループワークができず、オンラインでやったという報告が2校入っており、これからはコロナ対策を考えて、これまで通りのやり方でないやり方をコロナ禍でもっともっと深めていっていただきたい。これまでどおりのやり方の踏襲ではなく、新しいやり方、オンラインなど入ってくると思うので、ぜひ予算の使い方の中に新しいものも含めて考えていただければありがたいなと思う。

【委員】

(12) 若年性認知症支援コーディネーター事業、計画の123ページの「若年性認知症コーディネーターの広域的な活動の推進」ということで、関係機関と連携して若年性認知症の人やその家族の、企業等の相談に的確に応じ、就労継続の支援も含め、生活全般をサポートしますという計画が立てられている中で、実際の支援の内容として、この(12)の予算の中の説明だと、若年性認知症支援コーディネーターを配置し、電話相談や家族のつどいを実施するということであるが、その支援の範囲が電話相談のみの対応なのか、それ以外の支援があるのか教えていただきたい。

【事務局】

コーディネーター事業については、まずコーディネーターが相談窓口をしており、相談を受け、内容により、医療関係の相談で会社でどうしたらよいかということであれば、会社の方と一緒に面接をしたり、就労で悩んでいたならハローワークに付き添って行ったり、相談窓口だけでなくその先まで支援をやっている。単に電話で相談を受けているだけでなく、それぞれ内容に応じて支援している。

【委員】

若年性認知症支援コーディネーターの大沼さんは同行訪問をしたり、かなり県内の広域な方の支援を行っている。

あと、毎回質問させていただいておるが、(11) 市民後見推進事業のこと。来年度、更に予算が増えているようだが、これは、申請があったら助成するという形になっていて、アンケートを拝見すると、これを検討している市町村が非常に少ない中で、予算は増えており、これを消化するのに県として具体的にどのような政策を考えているのか。わたしとしてはできれば、市町村でなかなか研修を行えないような市町村もあると思われるので、県でオンラインで養成を推進していただけないかと。いつまでも、市から申請があれば県の方でお金は出しますよ、というだけでは予算が毎年非常にもったいない。今年度は、1,987万円の中から、どれだけ助成されたのか教えていただけたらと思います。

【事務局】

今年度については13市から応募はあり、実績報告が4月以降になるのでまだわからないが、コロナの関係で実施できなかった市があるので、取組をしている市は、一桁の数になるのではないかと思う。来年度についても要望の段階では多く、予定が18市町あったが、感染状況が理由で来年度は、やはり取りやめるということで、申請の数が減り、12市くらいになるのではないかという状況。予算はこれだけあるがかなり減る感じである。取組をしない市町村については、前回も御意見があったので、来年度、4月の調査で、細かく聞く予定である。こういった問題があるか県で確認したいと思う。

【会長】

オンライン研修みたいなものは可能なのか、そのへんはどうなのか。

【事務局】

開催する市町に検討するように伝えたいと思う。
ただ、一般の方が受講するので、それぞれが持っているパソコンで出来るかどうかというところもあるので、その辺も併せて伝えてみたいと思う。

【会長】

スマホで見れるとか、そのようなところがあるかと思うんですが。そのほかありますか。

「議題3（その他 コロナ禍における認知症カフェの運営状況等について）
事務局から説明」

【委員】

うちの法人でやっている認知症カフェが、やはり去年の2月からずっと中止しております。ほとんど顔を見なくなった方々もすごく増えており、たまたま、うちは買い物に来るスーパーの近くに包括があるので、その時に「すこやかポイント」といって、歩けばポイントが貯まるものを一時的にうちのセンターに置いたことがあった。

認知症カフェのボランティアに来てくれていた方が、寄ってくれた際、ずいぶん顔を見ませんでしたねということになり、皆さんそういうような状態で交流が減ってきていると思う。交流が減ってきているという事は、家族以外の人と話す機会がすごく少なくなっており、家族との会話は、「うん」とか「はい」とかしか簡単なものしかないため、他の人と話すことはすごく少なくなり、認知症の機能の低下が進んでしまうんだと思う。

これを再開するためには、万が一、そこで誰かコロナ感染者がいても、お互い責めないという関係を作らないと、どこも怖くて再開できないと思う。

あるデイサービスでコロナ発生した時に、再開するときにごく怖かったと言っていた。要望があったから再開したいが、また何かあった時にどれだけ責められるんだろうと心配していた。再開するとき単にこれだけの努力をしていますと言っても、やはり火の粉がふりかかってくる可能性がある。

再開にあたり、いかに事業所側が頑張っ注意しても、火の粉が飛んでいった場合に、周りも責めない合わない関係を地域住民と一緒に作っていかなければ、これからの活動はすごく怖いと思う。

これはみんなで支え合い、認知症の人と一緒に支え合っ暮らしやすい千葉づくりみたいなキャンペーンをやっていたかないと、なかなかそういう活動も怖いのかなと思うので、ぜひそういうところもお願いしたい。

【会長】

先程のリーフレットとかパンフレットを作っの啓発と並んで重要なことなのかなと思う。

精神科病院関係でも、県内だけでなく、知り合いの県外の病院でもクラスターになったら、地域住民の方からすごい批判を受け、ある会議をお願いしていたところ、わたしのようなものが出てよろしいでしょうかと遠慮されたので、むしろそういった経験をしっかり伝えていただくことが大事だと話したことがある。本当に目に見えないものでどんなに注意していても感染してしまうことはあり得るので、ここにいらっしゃる方は当然分かっていると思うが、それでも実際に目の前にしてしまっ批判的になってしまうというのが出てきてしまっと思う。ぜひ、啓発活動はお願いしたい。

【委員】

3の質問で、1で①または③を選択している場合、認知症の人の症状はコロナ禍以前と比べて、「わからない」が22市町村あっ、これはよくないと普通に思うが。わからない、

知らない、関心がない、興味がないと答えていいのか、と思うが。

ほかの意味があって「わからない」と回答しているのか。

【事務局】

再開して、様子を見てわからないと答えている人もいると思うが、中止のままと回答をしているところは、再開していないので今どういう状況かわからないというところもあると思う。

【会長】

カフェを開催している側からすると、そのフォローの仕方というか、その方々の経過がどうなっているか観察する機会がないという事かもしれない。積極的に経過をみようとする、訪問したり、連絡して体調を聞くしかない。直接、来ていただいてお会いするのがカフェなので、そういった意味ではわからないということになっているのかもしれない。

【事務局】

先程、津金澤委員の方から認知症介護実践者研修の話があったかと思うが、計画の本体の人材の育成のところ、認知症介護実践者研修とか認知症対応型サービス事業者管理研修とか触れている。認知症の方には再掲という形で整理させていただきたいと思う。

【委員】

実践者研修は書いてあるが、認知症介護基礎研修と認知症介護実践リーダー研修が一切触れられておらず、我々が現場に必要なのはその2つである。

【会長】

ワンストップのように、全体的な把握が出来るようにしていただけるとよいのではないかと思う。

【事務局】

参考の資料 A3 版の資料であるが、前に松川委員の方から、住民向けの講座の開催のアン

ケート調査について、行っていないと回答した理由を教えてくださいとの御意見を受け、今後、調査があるのでそこで資料提供したいと回答したが、調査が遅れている。

一般介護予防事業の中に介護予防普及啓発事業があり、その中で、どんな研修を行ったか調査をしようと思っていたが遅れている。実績報告のタイミングで調査しようとしており、とりまとめたら、またお示ししたいので、御了解いただきたいと思います。

また、細井委員の市民後見人のアンケートについては、「取り組んでいない」などの理由については、次回のアンケートで検討したいと思っている。